

「桜原桜」筑前琵琶で伝えたい

師範 寺田さんが作詞、作曲



寺田 蝶美さん

寺田さんは新曲「桜原桜」を、昨年十一月十一日に同市中央区の大濠公園能楽堂で開かれた「筑前琵琶保存会第五十三回定期演奏会」で披露し、今年三月二十日には、同市南区の東花畑公民館で

開かれた「サークル人権教育研修会」に招かれて演奏した。「このエピソードを、まだ知らない人もいでしょう。琵琶を通して多くの人に伝えたい」と寺田さんはいう。「桜原桜」にまつわるエピソードは、昭和五十九年三月、桜並木は市道拡幅工事のため、開花を前に伐採される運命にあった。近くに住む土居善胤さん(89)が助命の短

歌を詠んで桜の幹に結わえた。これが新聞の記事になり、読んだ進藤市長からの返歌が桜の枝に。工事は設計変更され、現在の桜並木になって残った。市民は進藤市長を「花守り市長」とたたえた。「桜原桜」の周辺は「桜原桜公園」として整備された。横を国道202号線バイパスが通っている。車で走って公園近くにさしかかると、ぱっと視界が開けた感じにな

る。寺田さんは、ここを通るたびに「桜原桜」を琵琶の曲にしようと思っ

た。寺田さんは、ここを「桜原桜」のエピソードは、区役所も南区の地域振興資源として、活用

花守り市長・進藤一馬先生
ご遺徳さらさらに輝く
福岡市南区桜原一丁目の桜並木「桜原桜」にまつわる、市民と進藤一馬市長(玄洋社記念館創設者・故人)が短歌を介して織りなした感動的なエピソードを題材に、筑前琵琶保存会師範、寺田蝶美(ちようび)さん(47) 同市城南区鳥飼Ⅱが作詞、作曲して、筑前琵琶の新曲「桜原桜」が誕生した。



大濠公園能楽堂で「桜原桜」を演奏する寺田さん

な話を琵琶の曲にしてきた。「桜原桜」のエピソードは、昭和時代の新しい出来事との思いもあつたが、それ以上に「琵琶を通して、大勢の人に知ってもらいたい」という気持ちが強かった。「短歌で呼びかけ、短歌で応じる。粹(いき)じやないですか」と寺田さん。



報 館
玄洋130号
平成30年4月1日
発行
一般社団法人
玄洋社記念館
郵便番号 810-0062
福岡市中央区荒戸三丁目
6番36号
西公園ハイツ201号
電話 (092) 762-2511
FAX (092) 762-2502

玄洋社憲則

第一条 皇室ヲ敬戴ス可シ
第二条 本国ヲ愛重ス可シ
第三条 人民ノ権利ヲ固守ス可シ

今号の主な内容

- ▽「西郷隆盛は征韓論者にあらず」再録 Ⅱ 2面
- ▽廣田弘毅先生顕彰祭日程決まる Ⅱ 3面
- ▽平成30年度賛助会費納入のお願い Ⅱ 3面
- ▽賛助会員芳名録 Ⅱ 3面

西郷隆盛は

征韓論者にあらず

(再録)

①

序

玄洋社記念館理事長

進藤 一馬

日本人で征韓論者は？と尋ねられるとほとんどの方が西郷隆盛と答えるでしょう。何のためらいも躊躇(ちゅうちよ)もなく…。これは皆、今日までの不正確、否、誤てる歴史教育から学んだ結果であり、この誤ちが単なるわが国内だけで済む

問題ではなく、国際的にこの誤解が発展しているのです。

わが国を近代化に導いた明治維新、その第一の功労者である西郷先生をわれわれ日本人が尊敬すればするほど近隣諸国ではこの誤解の度が増えます。す拡大されて行くのです。

戦後わが国はながい年月をかけて、あの忌まわしい第二次大戦の反省と誠意をもって、ようやく



西郷 隆盛

『玄洋』特別号外版」を再録

明治維新から満百五十年の今年は、各地で関連行事が展開されている。NHKの大河ドラマも、維新第一の功労者、西郷隆盛を取り上げた。西郷は、元福岡市長で玄洋社記念館の創設者、進藤一馬先生(平成四年没、享年八十九歳)もこよなく

崇敬されていた。

玄洋社記念館は、昭和六十一年四月、世上、西郷にまつわる「征韓論者」の誤解を正すため、当時の近代史研究の大家の論考をとりまとめた冊子「西郷隆盛は征韓論者にあらず」を『玄洋』特別号外版」として発行した。明治百五十年を機に、改めて、その内容を連載で再録する。

近隣諸国と友好関係を深めつつあるところに、前記の誤解、即ち「西郷隆盛は征韓論者だった」と決定的な烙印を押されると、当然近隣諸国の人たちには、征韓論者即ち軍国主義者であり、侵略主義者と信じてしまいます。しかも日本人が何ら西郷先生の冤罪(えんざい)を晴らすどころか、この問題に対する考え方に自信すらなく、今日まで誤解を解こうとする努力が足りなかった状況にあります。

た東洋哲学的政治家の西郷先生は、わが国のためだけでなく、清、韓国国に対して公平無私、王道の精神をもって常に対処されていたのであり、このような先生の真意が正しく伝えられないということは、独り私のみでなく多くの日本人にとっても誠に残念に耐えない、このまま放置しておけば崇敬する西郷先生のアジアに対する友愛の精神にそむくことになり、ひいては近隣諸国との友好交流にも大きなマイナス

平野は福岡・地行(じぎょう)の足軽であったが、若いころから学問が好きで国学を学んで勤王家の思想をもっていた。彼は藩主のもとでは最下位の家臣にすぎないが天皇の直属の臣であるという考えをもって「国臣」と名乗る。幼名・乙吉、のちに雄助と称していた。国臣は安政五年、脱藩し尊攘志士として諸国を遍歴していた。平野国臣は安政の大獄の弾圧を逃れて京を脱出した勤王僧・月照と西郷隆盛が安政五年十一月十五日桜島の下に広がる薩摩湾(錦江湾)に身を投げた時、同じ船中にいた。平野は筑前に逃れてきた月照の庇護を求め薩摩に連れて行くのだが薩摩にも月照を容れるところはなかった。当時、西郷隆盛は絶望的な状況にあった。この年七月、西郷が最も崇拜していた島津斉彬が急死して薩摩藩の実権は西郷嫌いの久光(西郷の方でも嫌っていた)の手に移っていた。月照の庇護を求められても今の西郷には何も出れない。遂にせっぱ詰まった形で月照とともに死を選んだ。月照は水死し西郷は助かるのだが、この事件で平野の名は志士の間で一段と有名になる。

筑前風涛録

〈14〉

頭山満と玄洋社

題字は進藤一馬福岡市長

柳 猛直

試練の時代

(この項続く)

三面へ続く

二面から続く

スであると思います。従って、ここに「西郷先生は征韓論者ではなかった」ことを世に訴える

ために、近代史研究に造詣の深い諸先生方のご協力を頂き、真の西郷先生の信念と言動を、そして真実をつぶさに著述された、この小冊子を出版し

た次第であります。どうか一読され、知人や友人をはじめ一人でも多くの人々に、明治六年頃の対韓国交渉の経緯と西郷先生の真意真相を伝

え広めて頂き、その輪の広がりが、わが国は勿論、世の人々の誤解の解消に役立てば幸いであります。昭和六十一年四月

平成30年度

会費納入のお願い

四月を迎えるにあたり、(一社) 玄洋社記念館は同月一日から平成三十年度分の賛助会費の受け付けを始めさせていただきます。

要領は次のとおりです。

【賛助会費の額】

▽個人会員Ⅱ一口一万円

▽法人・団体会員Ⅱ一口三万円

今年が昭和五十三年十一月に「玄洋社記念館」を創設されて満四十年の節目の年に当たります。当記念館としては「玄洋社の正しい姿を伝える」事業に、心を新たにしてい取り組む所存であります。

納入は郵便振込または銀行振込でお願い致します。振込先は次のとおりです。

【郵便振込】口座番号017701120738

【銀行振込】西日本シティ銀行赤坂門支店

普通預金 口座番号0740047

宛名はいずれも「玄洋社記念館」です。

賛助会費の受け付け

玄洋社記念館

「廣田弘毅先生顕彰祭」

今年は5月19日に斎行

生誕百四十年、没後七十年―極東国際軍事裁判で、文官でただ一人A級戦犯の罪に問われ、一言の弁明もせず刑場に消えた悲運の宰相、廣田弘毅先生のご遺徳を顕彰する「廣田弘毅先生顕彰祭」を、

5月19日(土曜日)午前11時から斎行します。一般社団法人玄洋社記念館の主催です。

場所は福岡市中央区城内5(福岡市美術館入り口)の廣田先生の銅像前です。(雨天の際は銅像向かい側、福岡県護国神社の参集殿で執り行います)



廣田弘毅先生の銅像

参加費は千円。詳細は玄洋社記念館(電話092・762・2511)へお問い合わせください。

賛助会員芳名録

(平成29年12月21日受け付け分まで・敬称略)

▼個人の部

【二万円】

小川 勇二

(福岡県粕屋町)

永島 英也 (福岡市)

渡邊 一馬 (別府市)

大石 宗 (高知市)

頭山 尚子 (立川市)

加藤 芳子 (福岡市)

匿名 彪 (福岡市)

建設コンサルタンツ 建設事業の計画・調査・設計・施工管理 ジーアンドエス・エンジニアリング株式会社 代表取締役会長 花田 勲 代表取締役社長 児玉 和久

福岡鮮魚市場のコア企業!! 21世紀の水産業界を領導するアキラグループ 株式会社 アキラ水産 代表取締役社長 安部 泰宏

株式会社 オー・エー企画 代表取締役 入江 秀雄

造園・緑化 自然とコミュニケーション 株式会社 別府梢風園 代表取締役社長 別府 壽信

（財）日本医療機能評価機構認定 開放型病院・臨床研修指定病院 原土井病院 理事長 原 寛

HARADOI HOSPITAL 原土井病院 〒813-8588 福岡市東区青葉6丁目40番8号 ☎092-691-3881(代) http://www.haradoi-hospital.com/

玄洋社関係史料の紹介

石瀧 豊美

第 72 回

同時代から見た頭山満

(16)

―書と人物―



藤田留治郎と朝日平吾の墓

藤本尚則作成の「頭山満翁年譜」に次の記事がある。

大正十一年（一九二二）

六十八歳

三月十七日 午後一時

宮城二重橋前にて藤田留次郎なる者政府糺弾の上奏文を携え爆弾を懐にし自爆して死す。頭山門下の有志その葬るに所なきを憐れみ、築地本願寺に於いて葬儀の後、小石川区大塚西信寺に葬り頭山の揮毫を乞うて碑を立つ（五月二十二日その上奏文内務省より発表さる）。



藤田留治郎
〔「概世憂国の志士藤田留治郎君」より〕

まず、友人で掃苔の達人でもある佐藤誠さんに、西信寺に藤田留次郎の墓が現存するかどうか、確認をお願いした。

掃苔とは（墓碑の）苔をはらう）ことで、一般には墓参りだが、著名人の墓碑探訪をも指す。今回の調査には佐藤見生さん、大澤努さんが協力して下さった。（写真は佐藤誠氏提供）

仏法山西信寺は東京都文京区大塚五丁目にある浄土宗の寺院だ。自然石を利用した墓碑表面には「藤田留治郎墓」とある

が、頭山満の文字の特徴は備えていない。

「年譜」に書かれている通りの「揮毫」ではない、と判断できる。頭山は裏面の碑文の文

面を書いた（撰文）とい

うことがわかった。

滋賀県人藤田留治郎慨時事懐上書自爆於 禁門而死大正十一年三月十七日也其事雖激而志則忠矣越百日同人百三十六名相謀瘞骨于此 大正十一年六月 頭山満撰

試みに現代文に直すと次の通り（多少意識しています）。

「滋賀県人藤田留治郎、時事を慨し（時勢に憤慨して）、上書（上奏文：直訴をしようとしたものだろう）を懐にし禁門（宮城）に於いて自爆して死す。実に大正十一年三月十七日なり。その事激なりといえども（行為は激しいけれども）、志はすなわち忠なり。百カ日を

越え、同人百三十六名相謀り（相談して、もちろん寄付を集めて）骨をここにうずむ。」

佐藤氏からは眞鍋儀十著『概世憂国の志士 藤田留治郎君』（星嘉吉発行、大正十二年三月）という小冊子があることを教えられた。国会図書館デジタルコレクションで公開されている。

同書はところどころ活字がつぶれているかのよう

に読めない箇所があるが、検閲の結果である。同書は眞鍋儀十『地獄の黎明』（大正十二年二月十八日発行）にも再録されていて、削除された部分があるところどころ空白になっている。以下は『概世憂国の志士 藤田留治郎君』からの引用。

「君は近寄る衛兵に『爆弾だ危険い』と連呼しつつ宮城に駆入ったと云う。自己が生死の瞬間に立ち乍ら、尚且つ他人に迷惑を及ぼすまじとする神其者の如き言動は到底常人の企及し能わざる所、不用意に発せられた此の言葉は実に君の麗わ

しき人格の迸りであり又清き友情の反映でなければならぬ。之をしも病者なり【以下、正常な判断のできない精神状態だったとする官憲の説に反論した部分と思われるが読めない。】」

「斯くして君は従容死に就いた。世間伝え云う、君は衛兵に突倒され、打伏したる俣爆死したと。余は断じて斯か信ずることは出来ない。何となれば衛兵に突倒された君には、尚爆死までに残された数秒がある。君が此の数秒を動かこうとしなかつたものは、君が突倒されて動けなかつたものに非ずして、君は此の間靜かに皇居に跪座して皇室の安泰を祈念し居たのである。君の死体の方向が皇居に向つて居り、君の死体の姿勢が黙禱の形にあつたのは何の爲めであるか。」

「事件の惹起したのは恰も第四十五議会の会期中であつた。切なる議員の希望に床次内相秘密会に之を朗読するや、其の慷慨の文、悲痛の節、並み居る議員は朝党野党の別なく顔を得上げず、遂には闖外（門外）に出で声を放つて君の爲めに哭いた議員さえあつた。」

「濫焉として君去つて一日、此の間君は世人に誤られ、郷党に容れられず、魂魄宙に迷つて其行く所を知らなかつたが、後漸く君の至誠天下の志士に通ずる所となり頭山満翁、寺尾亨博士、島田三郎先生、小泉又次郎氏、大竹貫一氏、其他二千有余名の来会者に依つて築地本願寺本堂に於て盛大なる法会を営まるに至つた。」

「君の永住の地、其処に今石碑が建てられ様として居る、君の右肩は同じく時勢を慨して世を去つた朝日平吾君である。朝日君と君、其の行為に於て相異つて居るけれど、共に政府の失政を呪詛した点に相似て居る」

単に「世を去つた」とさらつと書かれている朝日平吾は、この前年、大正十年九月二十七日、安田善次郎を刺殺して自殺した人物。